

地域の持続可能性に貢献する新たな観光産業のあり方

氏 名 辻 由紀子

指導教員 松永 裕己

要旨

国連世界観光機関によると、観光産業は世界の GDP の 10%を占める産業であり、今後も成長が期待されている。一方で、観光ブームの到来により、膨らみ続ける需要に対して過度な観光客が押し寄せることでオーバーツーリズムの問題は年々深刻化している。

こうした中、昨今の「観光」を取り巻く状況は大きく変わりはじめている。特に SDGs (Sustainable Development Goals) の観点から「持続可能性」への関心が益々高まる中、持続可能な観光(サステナブルツーリズム)を推進する活動が取り入れられ始めている。しかしサステナビリティへの取り組みは、多方面にわたり関与する内容も多く、実現へ向けての難易度が高い。では、どこから手をつければいいのか。本研究では、「地域」を足がかりにこれについて考えたい。

本論文では、第1章で観光産業のトレンドについて概観し、観光形態が多様化していることと、その結果生じている課題について整理した。第2章ではサステナブルな観光産業の条件について、地域の持続可能性の視点から検討した。それを踏まえ、第3章では北九州市の3つの宿泊施設についてヒアリング調査を行った。そこで明らかになったのは、施設単体で宿泊客を受け入れるのではなく、地域のコミュニティや他施設との連携でホスピタリティを実現しようという取り組みであり、そのための具体的な工夫である。第4章では、ヒアリング結果をもとに、観光が関係人口の構築に寄与できる可能性を指摘した。観光が一時的な場所の消費にとどまらず、観光客と地域との継続的な関係を築いていくことができれば地域の持続可能性につながるだろう。

著者自身も観光産業のひとつであるホテル産業に従事しており、本論文の問いは自分自身の仕事に突きつけられている問いでもある。地域持続可能性と本来の観光サービスとのバランスを崩す事なく、どのようにサービス向上を図っていけるだろうか。各地から訪れる観光客に対して、また地域住民にとって、どのような観光産業のあり方が必要とされているのか本論文の成果を実践していきたい。